

## 南紀 大塔川黒蔵谷

大田原

【日時】 2006年10月7日(土)～8日(日)

【メンバー】 L栗原、笹川、山川、大田原

ワカゴイ沢へ行くつもりで1ヶ月以上前から集結した女子メンバー。すっかり気持ちはゴルジュのへつりと平ヶ岳の草原へ向いていたのだが、如何せん天気予報が芳しくない。どうせなら3日間天気の心配のないところへ転進したい！というリーダーの意向により、南紀は黒蔵谷へ行くことになった。

金曜夜11時にレンタカーで厚木を出発し、翌朝7時に入渓点に到着する。やっぱり南紀は遠い。眠たい眼を擦りながら一時間ほど支度に費やす。やや雲が多く、思ったより涼しい。



【流れに抗う乙女たち】

はっきりした踏み跡を下り、本流を渡渉する。水勢があつて、私は半分流されるようにしてやっと渡った。黒蔵谷に入ってから、スクラムを組んで渡るような場所が出てくる。過去2回遡行経験のある山川さんの話だと、やはり水量が多いとのこと。女性のみでこの水流と格闘するのか・・・?ともあれ、少し進むと豪快な鮎返し滝が登場。落ち口から噴出するように水が落ち、釜もゴウゴウ鳴っている。

迷わず左から高巻く。廊下帯に入るといよいよ泳ぎ主体の遡行が始まる。流れを読みながら泳ぎ遡ぼる。お助け紐やロープを駆使しながら力を合わせて水と相対する。白く泡立つ流れに恐る恐る突入したり、飛び込んでみたり…。長い淵を泳ぐというよりはポイントで泳いだり、へつり泳ぎしたりすることが多い。水に浸かる必要があるところは、寒さに強い私が積極的に先頭を行かせてもらったが、こんなに全身で力いっぱい水と戯れながら遡行したのは初めてだった。楽しい!!けど、体力もつかない(>\_<)

強い流れを泳ぎ渡渉しようとして流されたり、強い流れに必死で抗ってみたけど敗退したり…。色々チャレンジさせてもらえたことは、私にとってよい経験だった。今回

ゴーグルを持参した私は小滝に顔から突っ込んで越えてみたり、飛び込んだりしたが、ゴーグルは大変便利であった。次回はくもり止めも用意しよう。

右から越えるか左から越えるか迷うようなところは山川さんの遡行経験を参考にする。釜を泳いで滝の左側をA0で登るという5m滝は、時間節約のため巻くことにする。ずっとずぶぬれ状態が続くせいか、日なたで休憩しても涼しい。というか、寒い。



【濡れたくないの】

高山谷を過ぎ、そろそろテン場を探さなくてはならない。8mほどの滝を高巻き、大野さんの記録にある右岸の『絶好のテン場』を探す。すると、あまりいい場所が見つからないまま巨岩帯の始まりらしいところに着く。山川さんの話でも巨岩帯に入るとしばらく適地はないとのことで、仕方なく少し戻った左岸の高台を整地してテントを張った。夜は山川シェフのおいしい夕食に満足したお腹をかかえて眠りについた。

翌朝は7時前に出発する。天気は上々。前日よりも減水しているようだ。前日巨岩帯の入り口だと思っていた大岩は、そこワンポイントだけで、少し進むと絶好のテン場があった。大野さんはウソツキじゃなかった…。巨岩帯に入って、ここでも4人で協力しながら越える。すると、正面に大きな滝が現れた。地図でいうカンタロウ滝か？左から高巻きに入るとなんとその滝の上に60mほどの巨大な滝があった。こっちがカンタロウ滝か。一直線に水を落とす、美しい滝だった。もちろん登れないので続けて巻く。右岸は立っているので大高巻きになり、最後は10mほどの懸垂を交えて滝の上を下り立った。ゴルジュ地形もだいぶ落ち着きを見せたと思いきや、最後の関門のように右から爆水を吐き出す滝が現れる。右から落ち口まで3mほど登り、ナメ状の上部は栗原さんがお助け紐を引きながら右壁をへつる。山川さん、私の順に待っていると、最後尾を登ってきた笹川さんが滝の噴出口で爆水を跨ぎ越え、滑りやすそうな左側をすたすた行ってしまった。びっくりである。笹川さんに「何であんな怖そうなところ行けるんですか〜」と聞くと、「別に大丈夫だったよ」と平然とのたまう。さすが!!真似できません。

地図で黒蔵滝と書かれている滝は「これなのー??」と疑問符を付けずにはいられないようなところであった。沢と同じ名を冠すべきは先の60m滝ではないだろうか。その後、穏やかになった流れを辿り、石垣や炭焼き小屋跡を見送る。「間違えて持ってきた」という使い込まれた(?)栗原さんの沢靴はもはや三枚卸しである。山川シェフ、靴も調理されたのですか?と言いたくなるような見事な状態。しかしよくこんな靴で微妙なへつりをこなして来られたものだと感心せずにはいられない。

帰京のことを考えて林道を下山することにしたので、510m付近から左の支沢に入る。

ガラガラの左俣を詰め、13時ちょうどに林道に飛び出した。あとはとにかく歩きに歩き、暗くなる前には車に辿り着くことができた。汗を流しに立ち寄った川湯温泉はとても親切な対応で、一同感激した。でも、男湯から見えちゃう露天風呂はナイよなあ。

3日目は観光日と決めて、熊野三山といわれる本宮・那智・新宮と詣でた。那智の滝(飛瀧神社の御神体)では「どのラインなら登れそうか」で盛り上がり、一般の観光客とは一線を画す乙女たちなのであった。

【グレード】 3級

【行程】 10/7 林道8:15 ~ 高山谷15:05 ~ 天場15:50

10/8天場6:55 ~ 林道13:00 ~ 林道17:45

【地図】 皆地

